

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号 66-0791
施設名 キッズタウンにしおおい
施設所在地 東京都品川区西大井2-5-21
法人名 社会福祉法人こうほうえん

1. 活動のテーマ

自然【体や言葉で表現してみよう】

<テーマの設定理由>

当園は、桜の木や銀杏の木、紫陽花など緑豊かな自然に囲まれている。0歳児では探索活動において自然の変化を保育者から伝える事が主であるが、身近な自然環境の特色を活かして子どもの興味・発見を受け止めながら成長に繋がるよう、様々な角度から子ども達の育ちを見守ることにした。園庭には、レモンやキウイ、さくらんぼ等の果実が実る木々を育てていて、それらを活用して保育活動を実践している。

2. 活動スケジュール

- ・園庭で自然物（花や木の実、虫や鳥など）を見たり触れたりしたりしながら戸外遊び
- ・公園など自然がある地域の公園へ探索活動

⇒それぞれ20～30分程度を週3～4日、通年

3. 探究活動の実践

◎準備した物・環境設定

- ・グラウンド遊びや保育園周辺の探索活動を多く取り入れる。
- ・花や木、木の実を拾い集める容器を増やした。
- ・季節を通して自然に興味を持てるよう、保育者が言葉がけをしたり、観察したり、触れたりした。

<活動の内容>

春から年間を通して「ちょうちょ」「とんぼのめがね」「どんぐり」など自然が関連する歌を歌いながら体を使って表現する遊びをリズム遊びとして行う。グラウンドで全身を使いながら自然に触れる。また、園庭遊びを通して、木々が実を付けたり葉を落としたりする様子を見たり、それらを集めてごっこ遊びをしたりする。探索活動に出掛けてグラウンド周りの木々や花壇を眺めたり、公園で葉っぱや木の実に触れながら自然を知る。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり>

子ども達は、園庭や公園などで目に入る「葉」に親しみをもち、「ぱっ」と言って指をさして見ていた葉を「はっぱ」と言うようになっていたり、自ら触れてみたり、保育者が拾い集めた葉を「ひらひら～」と降らせる姿を見て「ひらひら～」と一緒に言ったり、「もっかい！（もう1回）」と伝える姿があった。子どもの発達に合わせて秋ごろより新聞紙遊びを行うと、「ビリビリ」「ちぎちぎ」という言葉を覚えた子ども達は、戸外に出て落ち葉を拾うと、「ちぎちぎ」「パリパリ」と言って感触遊びを楽しむ姿が見られた。また、形が違う葉っぱを集めたり「あか」「きいろ」など色が違う葉っぱにも気付く姿も見られた。「どんぐりだよ！」と保育者が手渡

してみると、「コロコロ」と言ってリズム遊びや季節の歌で歌っているどんぐりを思い出して子ども達なりに表現する姿も見られた。地域のグラウンドでは、芝の感触に慣れず、始めは座ったり這う事を嫌がる子どももいたが、友達や保育者の姿を見て徐々に芝に触れられるようになり、「おんまはみんな」を歌うと這い這いで動いたり、「どんぐり」を歌うと芝の上で転がる姿も見られ、全身で自然に触れながら遊べるようになった。



・振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

自然との触れ合いを基に、子ども達の発語を確認したり、物（植物や動物、虫や鳥など）と言葉が一致する課程を確認することができた。「ちょうちょだよ」「はっぱだね」「おはな、きれいだね」と日頃から自然の名称を丁寧に伝えながら子ども達とやり取りを繰り返すことで、興味を示して子ども達なりに言葉でも伝えられるようになっていっていると感じ、改めて丁寧に伝える事の大切さ、乳児期の関わり大切さという物に気付くことができた。